

病害虫発生予察特殊報(第2号)

平成29年 6月 30日

神奈川県農業技術センター

病害虫名：カンキツそうか病

病原名：*Elsinoë australis* natsudaikai pathotype

(カンキツそうか病菌ナツダイダイ型)

作物名：カンキツ類

1 発生経過

- 農業技術センターと横浜植物防疫所により、カンキツそうか病の発生状況等の調査を実施したところ、採取したウンシュウミカンの葉の一部から平成28年に本菌が確認された。(図1)
- 本菌の神奈川県内での発生確認は初めてである。本菌は平成24年に国内で初めて愛知県で確認されている。
- 発生が確認された園地では、3の防除対策を実施しており、感染した枝等は剪除している。周辺園地では本菌は確認されていない。

2 病徴および生態

- カンキツそうか病菌には*E. australis*と同属の*E. fawcettii*があり、*E. fawcettii*は国内に広く発生している。*E. australis*には、病原性が強く被害が甚大なスイートオレンジ型と病原性が弱いナツダイダイ型が報告されており、今回確認されたのはナツダイダイ型である。
- E. australis*の典型的な症状は、果実表面の凹凸やかさぶたの発生である。ナツダイダイ型は、明瞭な症状を示さないこともあるとの報告がある。今回確認された症状と*E. fawcettii*による症状との区別は明確ではない。
- E. australis*は、病斑に生じた胞子が雨水によって他の宿主植物に付着し、気温14℃～25℃の湿った環境下に一定期間置かれると、宿主植物に感染する。最も感染しやすい時期は、幼果期といわれている。
- E. australis*は、菌が付着した穂木や苗木の移動によって人為的に感染が拡大する。なお、収穫された流通用生果実は、速やかに消費されるため一般的に感染源とはなり得ないと考えられる。
- E. australis*の寄主作物は、スイートオレンジ、ウンシュウミカン等のカンキツ属、キンカン属及びホホバ属の2科3属11種である。ナツダイダイ型のみで感染が報告されているのは海外ではグレープフルーツ、ナツダイダイの2種である。我が国で感染が

確認されているのは、ブンタン、ウンシュウミカン、スイートオレンジの3種である。

3 防除対策

- (1) 感染した枝や葉は伝染源となるため、剪定時に剪除する。剪除した枝葉は、ほ場内で埋没等適正に処分する。
- (2) 発生の確認された園地から苗木、穂木等を移動しない。
- (3) 米国では、被害軽減のために薬剤による防除を実施しているとの報告がある。なお、農薬使用の際は、かんきつそうか病に登録のある農薬を使用し、必ずラベルの記載事項を確認し使用基準を遵守する。



図1 *E. australis* ナツダイダイ型及び*E. fawcettii*の両方が検出されたウンシュウミカン葉の症状

(横浜植物防疫所提供 (無断転載禁止))

E. australis natsudaikai pathotypeが分離された葉からは、*E. fawcettii*も分離されたため、本症状がいずれの菌によって引き起こされたかについては不明である。加えて、個々の分離菌株の接種試験も実施していない。

神奈川県農業技術センター 病害虫防除部
〒259-1204 平塚市上吉沢1617
TEL 0463-58-0333 FAX 0463-59-7411
<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f450002/>